

1 東京 2020 大会がもたらした価値（資料1）

- 東京 2020 大会の参加選手は、オリンピックでは、過去最多と並ぶ 205 の国・地域と難民選手団、約 11,000 人、パラリンピックでは、リオ大会を上回る 162 の国・地域と難民選手団、約 4,400 人となりました。
- 選手のパフォーマンスも高く、オリンピックで 26 個、パラリンピックで 157 個の世界新記録が誕生しました。
- 多様性あふれる大会であり、性的マイノリティの選手も多く出場し活躍しました。
- 日本人選手も活躍し、メダル数は、オリンピックでは過去最多の 58 個、パラリンピックで過去 2 番目の 51 個という成績を残しました。
- この大会は、コロナによって分断された世界をスポーツの力で一つにし、世界中の人々に勇気と希望をお届けすることができました。

2 安全安心な大会開催（資料2）

- コロナ禍において安全・安心な大会とするため、プレイブックによる水際対策の徹底や、行動管理、検査の実施などの対策を講じました。
- これらの取組により、大会期間中で、陽性率は、空港検疫検査で、0.1%、スクリーニング検査で、0.03%と低く抑えられています。
- ピーク時においても、都内における訪日大会関係者の入院者数は 2 名、宿泊療養施設入所者数は 49 名でした。
- 専門家からは「大会は安全に行われた」、「バブルや選手村での検査がうまく機能した」と評価をいただきました。

3 安全・安心な大会開催・実効再生産数の推移（資料3）

- 大会時には、TDM等によって、交通量や人流の抑制も図られました。
- 1人の感染者から何人に感染が広がるかを示す「実効再生産数」でも、6月には1を超え、上昇が続いていましたが、開会日前日の7月22日をピークに、下落に転じています。
- この大会で得た様々な経験を、「多様な人が支えあう共生社会」、「SDGsを目指す持続可能な社会」の実現など、レガシーとして、未来の東京にしっかりとつないでいきます。